

市川第20100705-0240号

平成22年 7月 9日

市川航路の浚渫土砂活用による干潟の
再生及び覆砂に関する要望書

千葉県知事 森 田 健 作 様

市川市長 大久保 博

市川航路の浚渫土砂活用による干潟の

再生及び覆砂に関する要望書

盛夏の候、貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、県政発展のため、行動を重視した姿勢について、深く敬意を表します。

さて、知事が着任され1年が経過し、本市の課題の一つであります塩浜1丁目護岸につきましては、千葉県が主体となって護岸の安全対策とともに親水性護岸の整備に向け取り組んでいただいております。

しかし、昨年4、5月に地元住民、漁業者及び市川市がそれぞれ要望しました市民が親しめる海辺や漁場環境の改善の実現につきましては、ほとんど進んでおりません。

そうした中で、この度、千葉県において、市川航路の浚渫事業が計画され、平成22、23年度に約26万 m^3 の浚渫土砂が発生するという情報を得ました。

また、平成22年7月5日付けで、市川市行徳漁業協同組合及び南行徳漁業協同組合の両組合連名により「市川航路の浚渫土砂活用による漁場環境の改善について」の要望書が提出されました。(別添)

そこで、三番瀬に一番身近である市川航路から発生する大量の浚渫土砂を有効活用して、地元住民や漁業者が望んでいる干潟の再生及び覆砂による漁場環境の改善を進めることを以下のとおり要望します。

記

1. 市民が親しめる海辺とするための干潟の再生

現在、石積み護岸により塩浜2丁目護岸の改修を進めていますが、公園予定地前の護岸については、親水性に配慮した構造とする予定と聞いております。

そこで、その親水護岸前面に市川航路の浚渫土砂を活用し、干潟化を図り、市民が親しめる海辺としていただきたい。

2. 漁場環境を改善するための覆砂

現在、漁場改善については、漁場再生検討委員会で検討されておりますが、その中で、覆砂が有効策として実現化に向けて検討されています。

そこで、三番瀬に一番近い市川航路の浚渫土砂を有効活用して覆砂を行い、底質改善や干潟化を図っていただきたい。